

「シジュウカラの営巣(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

北軽井沢の山荘の物置の壁に設置したカメラ付きの巣箱は、孀恋村の木工職人(あきらさん)に特注で作ってもらったものだ。もう10年以上稼働し続けていて、営巣率100%の優秀な巣箱である。そもそも、シジュウカラやヤマガラのような「樹洞性営巣」の鳥類は、慢性的な住宅難で、適当な巣箱をかければ、ほとんど営巣する。(植木鉢や郵便受けにも巣を造る)



巣箱の中には、前の年の巣草が残っていることがあるが、すべて除去したほうが良い。その後わざと、若干の小枝や木の葉を入れておく。



巣箱に設置したカメラで見ると、こんなふうに見える。こうしておくで、野鳥が入った場合、枝や葉が動く。前後の画像で枝の位置に違いがあれば、何かが入ったとわかり、その境目の記録画像を見れば、営巣開始日時を知ることができるというわけだ。



6月21日の朝、最初のシジュウカラが、「住宅内覧」に訪れた。オスのようだ。「うん、ここは自分たちの家に良さそうだ。よし、妻も連れて来よう」



30分後、今度は夫婦そろって現れた。「どうだい、この家は?」「そうね、なかなか良さそうね。空室みたいだし、床もきれいだし・・・」「じゃ、ここに決めよう!」というわけで、契約成立。敷金・礼金なし、家賃も無料の、ワンルーム特別物件だ。



その日のうちに巣草の運び込みが始まった。早い!